

医療技術学科新聞

2015年
11月号

教員インタビュー

11月3日に内閣府より平成27年秋の叙勲が発令され、本学科の板羽秀之先生が瑞宝双光章を受章されました。板羽先生は広島県臨床検査技師会の元会長をされ、臨床検査技師の活躍と発展にご尽力をされてきました。今回はこの受章を受け、板羽先生にインタビューをさせて頂きました。

○臨床検査技師になろうと思ったきっかけは？
—臨床検査技師になろうと思ったきっかけは2つあり、1つ目は親も医療関係の仕事をしていたこともあり、医療系の道に進みたいと思っていたからです。2つ目は高校生の時に物理が苦手だったので、物理を使って受験をしなくていい臨床検査技師の学部を選びました。
○臨床検査技師に必要なことは？
—臨床検査技師は採血、心電図など患者と接することが多い仕事です。検査で不

安に思っている患者を少しでも安心させてあげるためにはコミュニケーションが必要になります。また、休みの日に家にこもらずにボランティア活動などをしていろんな臨床検査技師と関わって常に最新の医療を勉強することが必要です。

○受賞した今の気持ちは？
—誰でももらえるわけではないので受賞できて嬉しいです。これほどの名誉はないと思います。
○なぜ受賞できたと思うか？
—微生物分野において、主に感染症を医師などと一緒に対策をしたので、長年の功績や地域への貢献が認められたからだと思えます。
○本学科の学生にはどのような臨床検査技師になってもらいたいのか？
—患者の病気を発見、治療ができる、患者の人生を助けることができる立派な臨床検査技師になってもらいたいと思います。年をとった時に名を残す臨床検査技師になれるように努力して欲しいと思います。

臨床工学技士拡大フェア

11月22日(日)に「きて！みて！さわろう！」病院の最新メカクかっこいい臨床工学技士」という臨床工学技士拡大プロジェクトが広島市のシャレオ中央広場で開催されました。本学科は胸骨圧迫、AEDの使い方を紹介しました。参加者も子どもから大人まで幅広く、「体育館に置いてあるのを見たことがある」、「教習所で行ったことはあるけどやり方を忘れた」、「いざというときに使うには自信がない」という意見を聞きまし

た。これから私達は医療従事者になるために一生懸命な大学で知識を学ぶので、胸骨圧迫やAEDについて一人一人が理解し、できるようにならないといけないと感じました。また最近はいろんな場所にAEDが配置されているので、一般の方々にもAEDの使い方を知ってもらいたいと思いました。



(写真) AEDの使い方教える様子

中四国臨床工学会

11月21日(土)、22日(日)に広島国際会議場で第5回中四国臨床工学会が開催されました。この学会には多くの演題の応募があり、その中でも優秀な演題が表彰されました。この候補者に本学科の学生が3名選出され、そのうちの1名が見事にBPA(最優秀演題賞)

に選ばれました。今回は、「1回換気量の評価のための胸郭インピーダンス連続モニタリングに関する基礎的検討」という演題でBPAを受賞された富士原拓也さんにインタビューをさせて頂きました。
○どのような研究したか？また、工夫した点はどのようなことがあるか？
—患者の体位別の1回換気量を連続測定することを目的として、胸郭インピーダンスと排気量の関係について調べました。方法として、学生に被験者になつてもらい、心電図モニタリングと胸郭インピーダンスを同時に測定をしました。座位と仰臥位のそれぞれの体位別に電極を張り、インピーダンスと肺気量の相関性について調べました。電極を3種類用いて、位置を変えながらインピーダンスの違いが出るように工夫しました。

ることをお勧めします。また、学会のような大きな場所でも発表出来る機会があれば、ぜひ挑戦して欲しいと思います。
今後の大学・学科の予定
12/26(土) 冬季休業開始
1/7(木) 授業開始
作成者(医療技術学科クラス委員)
田中紀裕(4年臨工)
真鍋 葵(4年臨工)
比嘉千春(3年臨工)
久行菜帆(3年臨工)
青木麻友(3年臨工)
今朝丸麻希(3年臨工)
東原 諒(3年救急)
宮地彩花(3年救急)
水國あゆみ(2年臨工)
森元夏海(2年臨工)
百合野真由(2年臨工)
三澤英里子(2年臨工)
宮内 彩(2年臨工)
大畑泰斗(2年救急)
竹中佑介(1年臨工)
森山翔太(1年臨工)
斧幸一郎(1年臨工)
中澤歩美(1年臨工)
田中芹奈(1年救急)
西沙智圭(1年救急)
担当教員
藤本 浩章
川中 洋平
徳毛 悠真

○この研究をどのように生かしていきたいか？
—就職しても、この研究を活かしつつ、これをきっかけにいろんな研究をしていきたいです。
○後輩に一言
—より詳しく追究できるように研究は早めに取りかか